

名古屋支部

視察研修会

名古屋支部（永井弘児支部長）は、令和6年3月14日（木）に支部会員26名が参加し、三重県伊賀市にある三重中央開発（株）（三重リサイクルセンター及び伊賀リサイクルセンター）を視察しました。

最初に、三重中央開発（株）が属する大栄環境グループについて説明がありました。

大栄環境グループは大阪府和泉市で昭和54年に廃棄物の最終処分事業からスタートし、多くの施設により、収集運搬から中間処理・再資源化及び最終処分に至るまでのワンストップサービスを提供し、土壌浄化、施設建設・運営管理など環境等、環境創造に係るバリューチェーンを幅広く展開しています。

また、大栄環境グループが取り組む施策として環境施策、社会施策、ガバナンス施策の3つを掲げています。環境施策ではリサイクル事業のさらなる充実、熱処理施設の能力増強、最終処分場の容量確保、地域パートナー企業との連携を、社会施策では地域循環共生圏の構築、災害協定の締結先のエリア拡大、一廃・産廃処理計画策定協定先推進、森林保全、DX推進への注力、ブランド価値の創造、地域ソーシャルビジネスの創出、人材育成、ダイバーシティの推進を、ガバナンス施策としてコーポレート・ガバナンスへの取り組み強化、財務・非財務情報開示をあげ、人間生活・産業・自然と共生し、多様なパートナー企業との共創を通じて、新たな価値を社会に届け、決して止めることができない重要な社会インフラを提供する企業としての存在意義を高めていくとしています。

三重中央開発（株）は大栄環境グループの中核企業であり、昭和59年1月に管理型最終処分場を開設したのが始まりで、三重県伊賀市に位置する約70万㎡の広大な敷地に多種多様な廃棄物の処理を可能とするプラントが集結しています。グループ最大容量（許可容量：12,807,077㎡）の管理型最終処分場運営と共に1,200℃～2,000℃のジュール熱により残留性有機汚染物やPCB、ダイオキシ

ン、DDTなどを無害化するジオメルト無害化施設を運営しています。



三重中央開発（株）玄関にて記念撮影

また、焼却灰や汚染土壌を約1,000℃の高熱で焼成して無害化する焙焼炉の運営や、焼却施設（318t/日×2基）・焙焼施設（187t/日）・乾燥施設（100t/日）を備え、廃熱利用による約4,050KWの発電システムや地域へのエネルギー供給が可能なトランスヒートコンテナシステムを有する複合型リサイクル施設を運営しています。

令和4年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」第48条第1項第2号において国内初の認証を取得し、様々な廃プラスチック類をペレットにして再資源化しています。

伊賀リサイクルセンターでは持続可能な社会の構築と脱炭素化の実現に向け、再生可能エネルギー供給事業の推進に積極的に取り組む中、メタン発酵（バイオガス）施設及び堆肥化施設を令和2年9月に開設し、施設規模はメタン発酵施設（320t/日）、堆肥化施設（92t/日）、発電規模は1,980KW定格設備能力、年間発電量は15,000MWHで、中部及び関西エリアの食品関係会社から排出される食品廃棄物等を中心に処理し、食品ロス等の様々な社会課題の解決を目指しています。

視察についてご丁寧な対応をいただきました安田裕二所長に感謝を申し上げます。また、今回の視察研修に参加し、参加者全員が貴重な知見を得たことを感謝し帰路につきました。